（別紙4）　　　　平成　28　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3393600071
法人名	医療法人　こころ勝北診療所
事業所名	グループホーム　出雲屾
所在地	岡山県勝田郡勝央町植月中2368-12
自己評価作成日	平成　29　年　1　月　4　日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3393600071-00&PrefCd=33&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	平成　29　年　1　月　19　日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様と職員が一緒に笑顔で毎日の生活が送れるようにホーム内の行事を計画したり、デイサービスとの交流や地域の行事に参加し馴染みの方と交流しています。
町内外への外出も毎月計画しており、利用者様と地域の中に入り込み交流が広がる事を目指しています。
毎月『グループホーム便り』を発行し、面会に来れないご家族にも日々の様子が伝わるようにと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所の理念に基づく年間目標と月間目標を職員が作成し、定期的に振り返ることで理念の共有と実践につなげている。また、保育所・小学校や法人内のディサービスとの定期的な相互の交流や地域の文化祭には利用者の作品を出品したり、箸置き・匂い袋を参加者に配るなど地域の一員として活動している。行政との連携は訪問を中心に細やかに報告・連絡・相談をしている。役所に訪問する際、利用者が同行することもあり、相互の理解に資するとともに社会福祉協議会が運営するデイサービスを訪問し、知人と語り合ったりもしている。また、法人内のデイサービスとの合同行事やボランティアの受け入れを行うことで、地域とのつながりを深める工夫もしている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に見える所に掲示し共有できています。 理念に沿った対応ができるように心がけています。	玄関及びタイムカードの傍に掲示し、職員が自然に目にするようにしている。また、理念に基づく年間目標・月間目標を職員が作成し、振り返ることで実践にもつなげている。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校・保育園の運動会や相撲大会の観戦に出かけたり、地域のコミュニティーでの文化祭に作品を出展している。デイサービスとの定期的な交流も行えている。秋祭りや駅伝大会での休憩場所になっている。	保育所・小学校の運動会や相撲大会への参加をはじめ、季節ごとの地域の行事に積極的に参加し、交流している。文化祭には壁画を出品するとともに手作りの箸置き・匂い袋を参加者に配り、地域から楽しみにされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の文化祭に作品を出展し手作りの品を持ち帰っていただけるようにしている。 地域の役員研修など受け入れを行っている。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・区長・老人会・民生委員・ご家族を交えて利用者様の状態・行事報告・ご家族からの要望・行政や町内からの助言などを意見交換している。要望はすぐにサービスに活かすようにしている。	高齢介護課・区長・老人会長・民生委員・多くの家族が参加し2ヶ月に一度、開催している。内容は運営状況・行事の報告と計画・意見交換である。出された意見は食中毒の予防に反映している。	
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回参加していただきホームの実情を理解していただいている。 提出物などは役場に持って行き担当者の方に直接渡すようにしている。不明な事や困りごとも相談するようにしてる。	管理者が日常的に役場を訪問し、報告・連絡・相談をこまめに行っている。訪問時には利用者が同行することもあり、職員と言葉を交わしたり併設のデイサービスの知人を訪問することもある。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について施設内でも研修を行い身体拘束をしない取り組みを行っている。玄関や窓は開けて開放的な空間を作るように心がけている。	年間計画に基づき、法人内のデイサービスと合同で研修したり、外部研修参加者による報告により共有している。言葉についても、接遇研修をとおして予防に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設内で研修を行い虐待について考える機会を設け、職員が共通認識が出来るようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時に利用できるように支援します。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は必ず管理者が行い文章と口頭での説明を行ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加していただき要望など意見を求めている。参加が出来ないご家族にも面会時など要望をお聞きするようにしている。	利用者は受診や入浴時に、家族は面会や運営推進会議の時に意見を聞くようにしている。出された意見は、食事の量や新年に着用する下着や洋服の準備に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや職員アンケートで業務の改善が必要な所は話しあい改善するようにしている。代表者も困りごとがないか訪問時には聞いてくれる。	年2回の職員アンケートと面談及びミーティングの時に職員から意見を聞くようにしている。出された意見は、職務分担の見直しや行事の内容に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員が働きやすいように整備に努めている。職員の休暇希望を優先してシフトを作成したり資格取得が出来るように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のミーティング時に研修を行ったり、外部研修に参加できるように研修案内を申し送り参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政主催での管理者会議があり情報交換を行っている。同法人のデイサービスとは合同で行事を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族や利用者様から困っている事や希望をお聞きし馴染みの関係になれるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時にご家族の困りごとについてお聞きしグループホームでの生活をどのように送って欲しいか要望をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様より、ご家族の入所への要望が強い事もありご家族の意思を優先して入所の受け入れを行う事が多い。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の持っている能力を発揮していただき、縫物、洗濯物干しなどの家事作業を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の生活の様子をお伝えするようにしている。また体調の変化がある時にはその都度連絡している。ご家族に参加していただける行事を増やしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人の面会時にはゆっくり話が出来るように支援をしている。馴染みの場所へ出かける事もある。	定期的に同一法人のディサービスと合同の行事をしたり、利用者がかつて通っていた地域のディサービスを訪問して地域の人々と会話を楽しんだりしている。また、知人・家族の面会時には寛いで話ができるよう、声をかけたり茶菓も出したりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや体操などを行い楽しい時間が過ごせるように支援している。 利用者様の相性を把握し職員間で情報の共有を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られて困らないように必要な情報提供を行うように努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から利用者様の思いをくみ取るようにしている。利用者様がご自分で要望を表現できない方にはご家族に相談して対応している。	受診や入浴など職員と一対一になる時に思いを聞き、外出先や誕生日の食事メニューに反映している。意思表示が困難な利用者は家族から聞き取り、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に情報提供にあった事や、ご家族や利用者様との話しの中で情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムが把握できるように努めている。出来る事はご自分でしていただけるようにサポートしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族に意向・意見を求めている。毎月のミーティングで利用者様の状態を職員全員で確認するようにいている。	利用開始時にケアマネージャーが計画の案を提示し、家族と連携している。1ヶ月後に担当者の報告を基にミーティングを行い、再び家族と話し合って計画の確定をしている。モニタリング・見直しとも6ヶ月としているが柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はバイタル・食事・水分・排泄や行動記録だけではなく、会話なども記録するようにしている。職員間で情報共有が行えるように申し送りでも状態報告を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況によっては病院受診など必要な支援は柔軟に行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり保育園の慰問や地域の役員研修を受け入れている。老人会から花の苗をいただく事もある。		
30	（11）	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望の主治医の診察を受けている。必要に応じ受診の介助も行っている。定期的に病状をご家族に連絡するようにしている。	半数の利用者がかかりつけ医を継続し、定期的に往診を受けている。協力医との24時間のオンコール体制や法人のディサービスに常駐する看護師とは日々、連絡を取り合い、利用者・家族に医療面での安心感をもたらしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の看護師が対応してくれており、日頃の健康管理や医療面での相談、助言を受けている。職員も相談しやすい関係が築けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には速やかに利用者様の情報提供を行うようにしている。また退院後の生活がスムーズにできるように入院中も面会に行ったり、退院時にも情報提供をしていただいている。		
33	（12）	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化・看取りについて説明を行っている。ご本人やご家族の希望を尊重しながら支援していきたい。	利用開始時に重度化・看取りについての説明を行うとともに、内部研修に講師を招いて研修し、利用者・家族の意向に添えるよう準備をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連絡網・マニュアルの整備を行い周知している。急変時には医師や看護師の指導を受けながら対応している。		
35	（13）	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い火災時などの対応を理解している。地域の消防団との救護要請の体制作りをしている。避難訓練時には消防署や消防設備事業者に適切な器具の使用方法の指導をしていただいている。	年2回、昼間と夜間を想定した避難訓練を実施している。また、訓練時には異常を知らせる赤色灯の作動を地域に知らせる取り組みもしている。	訓練の実施を地域に知らせているので、一歩すすめて地域も参加する訓練も期待されます。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇について研修を通し言葉がけなど注意している。	年間の研修計画に基づき、接遇の研修の中で声のかけ方やタイミング・トイレ誘導・入浴介助について学び合い、利用者一人ひとりの尊重とプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や表情から利用者様が自己決定できるようにいろいろな選択肢を提案している。職員が誘導している部分があるかもしれない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望を優先した支援を心がけている。利用者様と一緒に行う家事作業などは利用者様のペースに合わせて行えているが、入浴やトイレ介助などは職員の都合で動いている事もあるかもしれない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前には着たい服を選んでいただくようにしている。訪問散髪に来ていただき、希望の髪型になるように利用者様が美容師に話しをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや食器の片付けなど出来る事は声掛けをしながら一緒に行っている。職員も一緒に食事を行い会話を楽しみながら食事を行っている。	配達される食材を用いて職員が3食とも手作りしている。利用者も下ごしらえや片づけに加わり、和気藹々と食事を楽しんでいる。食事が楽しみなものとなるよう、誕生日のケーキ作りや外食などの工夫もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量のチェックを行い体調をみながら調節を行っている。嚥下機能の低下がある方にはトロミ剤を使用し安心して食事ができるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きを行っている。まずはご自分で行っていただき出来ない部分を職員が介助するようにしている。夜間に義歯洗浄剤を使用する方もある。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し排泄の状況を把握するようにしている。日中は全員の方がトイレでの排泄を行っている。	排泄表に基づく言葉かけと誘導により、昼間は全員がトイレで排泄している。夜間は一人ひとりの状況に応じた対応となっている。失禁の回数減の改善例も見られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取をしっかり行い、牛乳やヨーグルトを摂取するようにして排泄状況の把握を行っている。歩行練習などで身体を動かす事も心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度の入浴予定はありますが本人のペースで入浴が出来るように支援しています。見守りを中心にしながら出来ない部分の介助をしながら支援している。	週に3回、午前を中心に実施しているが希望により午後に入る人もおり、柔軟に対応している。嫌がる人には言葉かけの工夫により清潔を保っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の明かりなど入眠がスムーズにできるように調節している。眠れない時にはホールで過ごしていただき自然な睡眠が出来るようしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や薬剤師から新しく処方される薬についての説明があり、申し送り・記録等に記載し職員全員に伝わるようにしている。また状態の変化があった時には主治医へ相談するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野の仕事など声かけをしながら一緒に行っている。男性でも野菜の下ごしらえをしたり、洗濯物をたたんだり参加される事もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い時には施設の周辺を散歩する事もある。月に1度は地域の行事や外出を計画しており季節を感じられるように支援している。 また食材の買い出しなど一緒に出かけ気分転換が出来るようにしている。	時候の良い時には買い物や散歩に出かけたり、月に一度は地域の行事に参加するようにしている。また、花見やドライブ・外食も計画的に実施し、外出の支援に努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望で少額のみ所持している方もあるが支払いに使用する事はない。買い物に出かけたときは食べたいものを選ぶことはある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から連絡がある時には柔軟に対応している。暑中見舞いや年賀状など季節の節目にはご家族に葉書を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が感じられるように毎月、壁画を作成しホールに飾ったり、行事を行った時の写真を張り出すようにしている。テレビの音や照明の光、ホールや居室の室温・湿度に注意している。	清掃が行き届き、光や音・温度や湿度が適切に管理され空気の淀みもない。また、利用者の状況に合わせて机の配置を変える配慮もしている。毎月、利用者が作成している壁画や行事の写真を貼り、生活感を出す工夫もしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間と食堂が同じように機能しているため生活スペースが限られる。座る位置など配慮し集団や個別で過ごせるように、またホールに季節が感じられる物を飾り過ごす時間が楽しいものになるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンスの位置など利用者様やご家族と相談し決めている。写真を飾ったり自宅より位牌を持ってこられ管理されている方もある。	居室の表示に馴染みのある果物の名を付け、利用者・家族に親しみやすく迷わないと好評を得ている。仏壇を置いたり、誕生日カードや年賀状を飾るなどその人らしい部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札には名前も表示してあるが馴染みのある果物の絵を使用する事で自室と認識できている。シルバーカーや杖を置く位置にも工夫し安全に移動が出来るように支援してる。		